


第29回(令和4年度) 千葉県建築文化賞 表彰作品集



主催：  千葉県

共催：  一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 熊谷 俊人

令和4年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第29回となる今年度は、50点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞2点、優秀賞3点及び入賞4点の合計9点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックを有効活用したもので多岐にわたっており、周辺環境との調和や地域とのつながりを生むもの、歴史的まちなみや伝統工法を継承するもの、人々の暮らしに寄り添ったものなど、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、社会環境の変化等に対応し、県民の命とくらしを守るとともに、恵まれた自然環境や優れた都市機能を持つ千葉で、全ての県民が生きる価値、働く価値を感じられる「千葉の未来」を創造していくため、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

令和5年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	三菱銀行佐原支店旧本館	8
第29回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	丸山郵便局	8
エルピザの里	3	市原ゴルフクラブ市原コースクラブハウス	9
香取の引き継がれた家	4	谷津の音楽小屋 Atelier Musica	9
のだのこども園	5	選考の基準	10
HOUSE F	6	第29回千葉県建築文化賞検討会議	10
金柑の実る住まい	7	千葉県建築文化賞の実績(応募総数・受賞作品数)一覧	10
		受賞作品の位置	

第29回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募50点から9点を表彰



千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

(選考経過)

第29回千葉県建築文化賞は令和4年5月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数50点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

一次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物6点、住宅6点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。二次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞2点、優秀賞3点、入賞4点を表彰候補作品として決定した。

今回も新型コロナウイルスの影響を受けたが、検討会議や現地調査の時期が感染者増加のピークとずれたため、スケジュールどおりに募集・調査・選考を進めることができた。さまざまな規制・制限のなか、力作に応募・推薦して下さった皆さまの熱意に深く感謝します。

今年度の検討会議も座席の間隔を広くとり、オンライン参加も導入して、入念な感染防止策を講じての開催となった。困難な準備に奔走していただいた事務局にも心から感謝します。

募集部門	選考経過	応募総数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		25	6	1	1	3
住宅		25	6	1	2	1
合計		50	12	2	3	4

(総評)

一般建築物の部

一般建築物の部への応募は25点であった。各用途に興味深い作品が見られ、受賞にいたらなかった作品にも質の高いものが多かった。

最優秀賞の「エルピザの里」は、知的障害者の生活施設である。交流ホールと5棟の生活ユニットが中庭を囲む構成をとり、これによって入居者が特性に合わせて居場所を選べる生活の場をつくり、同時にホールを介して地域と積極的につながる運営を可能にしている。木造(一部RC造)でぬくもりのあるヒューマンスケールの空間、また既存施設のある敷地でユニットを活用しながら建て替えを進めた建設計画と併せて高く評価された。

優秀賞の「のだのこども園」は、既存の幼稚園に隣接したこども園である。大きな樹木のある敷地を活かし、木架構の建物が外廊下を介して園庭とつながる細長いプランをとっている。部屋と園庭を自由に行き来し、土の上を駆けまわるこどもたちの笑顔が印象的であった。

入賞の「三菱銀行佐原支店旧本館」は、1914年に建設され、2011年の東日本大震災で被害を受けた県指定有形文化財の建物を、意匠や材料を保存しつつ耐震補強したものである。歴史的町並みのシンボルを復元再生した意義は大きい。「丸山郵便局」は、「+(ぶらす)エコ郵便局」の全国第1号店舗として建設された木造郵便局である。外壁の黒い杉板は、地元の親子約60人と周辺郵便局長が協力して製作した焼杉であり、この施設の意図をよく表している。「市原ゴルフクラブ市原コースクラブハウス」は、山上に建つクラブハウスの建て替えである。優美な曲線を描く大屋根が、かつての稜線を想起させつつ風景に溶け込んでいる。

住宅の部

住宅の部への応募は一般建築物の部と同数の25点であり、こちらも質の高い作品が多く、難しい選考であった。

最優秀賞の「香取の引き継がれた家」は、台風被害で屋根を損傷した築100年以上の古民家を修繕・改築したものである。スス窓風の採光窓を設け、土間につながる表玄関を大きく開放し、薄暗かった屋内を明るく気持ちよい空間にするとともに、風の通り道をつくって快適性を高めている。建物に対する施主の愛着と大工棟梁の技がみごとに結実した作品である。

優秀賞の「HOUSE F」は、新しい住宅市街地の一角に建つ併用住宅である。事務所とカフェを兼ねる1階は通りに面して大きな開口部とウッドデッキを設け、街とのつながりが生まれる場所を目指している。さらに、各階のテラスへの植栽と階段状の吹き抜けが、このつながりを視覚的に強めている。

「金柑の実る住まい」は、駅に近く人通りの多い道路に面して建つ専用住宅である。中心にライトコート置いてプライバシーを確保しており、この空間に向かって開いた2階は明るく開放的な生活の場となっている。1階正面の格子戸を開け放つと、ライトコートを通して街との緩やかなつながりが生まれる。

入賞の「谷津の音楽小屋 Atelier Musica」は、主屋敷地の一角に建つ楽器演奏のための小建築である。響きの残る空間をという施主の希望に応じて、全体が木製楽器のような作品となっている。

最優秀賞

一般建築物の部

～知的障害の個性もつ利用者と
地域を繋ぐ居心地の良い住まい～

建築主：社会福祉法人 清輝会

設計：株式会社 ゼロ・アーキテクト プラス コンサルティング

施工：輝建設 株式会社

所在地：千葉市緑区高田町149-2

エルピザの里



多様な人々を迎え入れる大庇を持つエントランスファサード

多様性という言葉が頻りに耳にするようになったのは2015年にSDGsが国際目標として国連サミットにて採択された頃からだろうか。エルピザの里を訪れ、一般的に障害者支援施設の新築は難しく、建物の老朽化の問題には生活を継続しながらの建替方法模索が必要である事などを知ると、あえて目標に掲げなければならないほどに、多様性を受け入れる社会は当たり前存在しているわけではなく、未来へ向けて理想を実現しようとする人々の熱意と努力に支えられて初めて築かれていくのだと再認識させられた。

本作品の随所に見られるのは、知的障害という個性を持つ人々が、自然豊かな場所で、地域の人と関わりながら、人生を過ごしていく場としてどうあるべきか、と考え抜かれて導かれた愛情にあふれるアイデアである。空間形状や素材の選択、光の有り様などによって多様な質感を持つ空間が、利用者のその時々気持ちに寄り添えるように優しく存在している。どの空

間に足を踏み入れても、利用者の穏やかな笑顔に出会うために、どうすれば精神的な安定を得られるかと想像力を働かせ、建築家や施設運用に関わる方々などが、長い時間をかけて互いの専門性に敬意を払いながら、既成概念にとられない先駆的な方法を含めて最良を探索してきたことが伝わってくる。

この施設が地域との共生を深め、知的障害への理解を醸成し、10年後20年後と時間を経るほどに真の意味での多様性の起点として強く認識されることになるだろう。千葉県でこのような社会が育まれていく未来をととても誇らしく思う。

(加藤 未佳)



障害者の家としてのくつろげるユニット



ユニットとその他空間を柔らかく繋ぎ、
各々の過ごし方に寄り添う縁側廊下

(撮影全て/フォトワークス松田哲也)

建築主：八木 晃一
 設計：株式会社 理工舎
 施工：株式会社 理工舎
 所在地：香取市神生

～農家の暮らしとともに引き継がれる民家～

香取の引き継がれた家



外観南西

最大の改変は、元茅葺の大屋根にすず窓風の開口部を新設したこと。北関東南東北ではしばしばみられるかたちだが、冬には家の奥深くまで陽が差し込み明るくなった。以前施された改修により軒が垂れ下がってしまっていたが、大工の高野さんは、岩手県での経験があったために、気仙大工に特徴的な工法である出桁造りをここに適用し、問題を解決した。

屋根の茅を下ろしたとすると4トンの産廃になるが、この手の民家は自重で安定が保たれていることを慎重に扱い、茅を残してその上から金属板葺きとしている。茅の断熱効果も期待できる。床下補修で出た丸太大引の古材は刻んで薪ストーブの炉枠や柵に転用するなど、住まい手であるご家族と知恵を出し合った痕跡が随所にうかがえる。「2年近くかけてじっくり改修ができたのも、家主家族が農家さんで自然の顔色をうかがいながら進めるような仕事に理解があったから」と高野さんはいふ。結果

的に廃材処理費を大幅に減らし、誰にでも手に届く工事費でできた。家主を交えて民家と対話しながら改修を進めていくうちに、理があるのに今では使われなくなった技術や知識を再認識することもしばしばだったという。

建築史家の藤森照信は、民家研究の草分けである今和次郎の民家のとらえかたを〈器〉と〈中味〉という言葉を用いて説明しているが、それを援用するなら、人間の暮らす〈器〉としての民家だけを改修しても古民家再生にはならない。生活という〈中味〉と不可分な全体としてとらえてこそ古民家再生が可能になる。香取市神生の八木晃一さんの民家の物語はそのことを身をもって教えてくれている。(岡部 明子)



室内



スズ窓風採光

優秀賞

一般建築物の部

建築主：学校法人 加藤学園

設計：水上哲也建築設計事務所 一級建築士事務所

施工：株式会社 篠原工務店

所在地：野田市蕃昌338-2

～風景の中で自然に囲まれて育つ子どもたち～

のだのこども園



全体外観

「子どもたちが自然と戯れ、生き生きと風景に溶け込んでいる」

園に入った時の第一印象だ。

敷地は野田市郊外の緑に囲まれた住宅街の中にある。隣接する幼稚園を40年以上運営してきた建築主は地域ぐるみの子育てができる「地域コミュニティのハブ」となるようなこども園を構想したという。

園舎は既存の幼稚園や園庭の遊具、樹木などの風景と連続する配置となっている。幼稚園の外廊下形式を踏襲し、全ての保育室が園庭に面するよう細長い敷地に沿ったボリュームとしている。長い園舎は「保育棟」と地域へ開く「交流棟」に分かれ中央に既存樹木を取り込んだ「テラス」で繋がれる。「テラス」は性格の違う2つの棟を明確に分ける役割と園舎から園庭につながる外廊下の軒下と共に、子どもたちが季節や天候に左右されず、自由に内外を駆け回ることができる空間となっている。

構造は燃え代設計による準

耐火構造の木架構に、園庭側のみ鉄鋼柱桁とする混構造の建物とすることで、園庭に大きく開く計画としている。集成材の木梁は梁下の桁材をなくす工夫をして、深い庇を持つ外廊下でも室内へ採光の確保し、室内から外廊下まで続く木梁は保育室から外廊下～園庭との連続性を高めている。

竣工から約4年の歳月が流れ、園庭の木々も子どもたちと共に成長し、テラスや外廊下の木床、集成材の梁も自然に溶け込み馴染んできている。建築主や保護者たちも日常の清掃やメンテナンスに対して積極的だという。今後の園と子どもたちの成長を地域ぐるみで見守り、建物の経年劣化に伴う変化にも丁寧に対応していけることと思う。（藤本 香）



テラス1階



保育棟1階

(撮影全て/鈴木 研一)

優秀賞

住宅の部

建築主：福井 啓介 + 福井 美穂
設計：株式会社かまくらスタジオ
施工：有限会社アイエフ
所在地：流山市おおたかの森南

～建築家の仕事場兼住居がまちをつくる挑戦～

HOUSE F



つながりを感じられる俯瞰写真

(撮影/新建築社写真部)

TX流山おおたかの森駅からほど近い住宅地の角地。階を上がるにしたがって奥にずれていくグリーンな吹抜けを介して、まちに開かれた1階のカフェ兼オフィスと2,3階の住居がつながっている。ダイニングキッチンの前にはエディブルな植栽、寝室の前には安眠効果のある植栽、そして、朝日で目が覚める。建築家家族の隅々までデザインされた生活自体が、生きたショールームのよう。キッチンにある小物のひとつまでデザインがバランスを逃れられない完璧な世界。

1階を、敷地いっぱい広がるウッドデッキと一体的に使えるカフェ兼仕事場とすることで、暮らしの一部を拡張してまちの人たちとシェアするコンセプトだ。道に面する植物たちは、地域の株分けネットワークを介してつながっている。隣地との間の袋小路に面するようにゴミ集積所を提供しつながりを育む。

TX沿線では、大量供給されたひとりの郊外住宅地を反面教師に、ま

ちづくりの工夫が数多くなされている。このように、カフェの同居する建築設計事務所の上に建築家家族が生活しているようなところが近隣住区単位にひとつづらいでできると、まちはどうなっていくのだろうか。住居のトラブルの気軽な相談でカフェを訪れたことに始まって、地域に住む人たちみんなが、まちの困り事を解決し、自分事としてときにまちの決め事に参加し、都合よくまちを運営していく自治もまんざら夢ではないかもしれない。

そして、子らも巣立った何十年か先に、建築家の福井さんは今日も、屋上に上がり、城下を見渡す城主気分洗濯物を干しているだろうか。

(岡部 明子)



一階の事務所兼カフェ兼住宅



株分け植物一堂に会された斜めの吹き抜け

(撮影/TOREAL 藤井浩司)

優秀賞

住宅の部

～人通りの多い住環境にあって、
時と空間を孕んだ美しく快適な住まい～

建築主：T.M

設計：アトリエ24一級建築士事務所

施工：株式会社 佐久間工務店

所在地：千葉市花見川区

金柑の実る住まい



南側ファサードの昼景 木製格子戸を開いた状況とライトコートの様子。右側に移植した金柑の樹

本エリア(千葉市花見川)は人通りが多く雑多な住環境が進み、プライバシーの確保や開放性のある住居構成の実現が困難な状況にあった。施主と設計者は、金柑の木が象徴的だった既存の住宅に代わり、短期・長期の時の流れを受け入れられるような美しい空間構成の住まい(敷地面積：150.97㎡、木造2階建て、建築面積：78.46㎡、延べ面積：142.63㎡)を生み出した。そこでは、「ライトコート」を中心とする、昼夜光の豊かなプライバシーが確保された都市型住宅をデザインすることが大きな課題であった。金柑の木は過去の思い出として再びそこに植えられ、この住まいを象徴する名称として受け継ぐことになった。

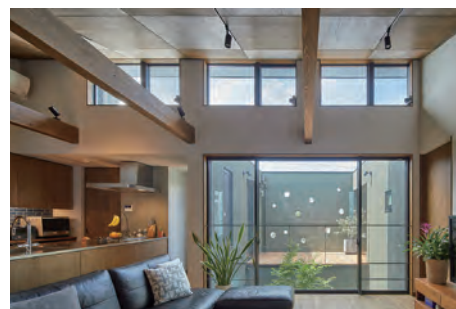
住まい手は日々の暮らしの中で近隣との繋がり方、関わり方を気分と目的に合わせ、高めの天井高や開口部とともに自由に選択、調整することができる。そして、暮らしに楽しさや心地良さが与えられ、家の中だけではなく外の街へと染み出す。それに

加えて、将来の家族構成の変化に対応可能なつくりも、時系列に対応する工夫である。夕刻に拝見した住まいの佇まいと施主が示した高い満足度は、その実態をよく表していた。

また、高気密・高断熱の高い性能(Ua値：0.48W/㎡・K、C値：1.0c sn²/㎡)はもとより、施主の強い希望で薪ストーブを設置し、僅かな燃料で暖房が賄え、CO2排出削減と現代のエネルギー料金高騰対策に寄与している。審査ではこのような優れた都市型住宅のあり方が高く評価され、住宅部門での優秀賞を得ることになった。(岩村 和夫)



ライトコートからエントランスを見る(夕景)
3つの住まいの構成が見える



2階リビングからライトコート越しに
バルコニーを臨む(昼景)

(撮影全て/鈴木文人)

建築主：香取市
設計：株式会社 坂倉建築研究所
施工：清水建設株式会社 千葉支店
所在地：香取市佐原イ1903-1

入賞

一般建築物の部

～技術による復原で、ルネサンス様式復活～

三菱銀行佐原支店旧本館

香取市佐原の「重要伝統的建造物群保存地区」に大正3年に「川崎銀行佐原支店」として建設され、平成3年に県指定有形文化財となった煉瓦造の建物は、まち並みに調和した美しい建物である。平成23年の東日本大震災の被害を受け内部開放は見合わされていたが、令和元年度から令和3年度にかけて耐震補強工事と復原・修復工事を行い佐原三菱館として一般開放されている。

まず、耐震補強工事は建物の内外観の姿を残す為、煉瓦壁の中に鋼棒を入れ、鉄骨トラスを屋根裏と回廊に廻すことにより補強材をほぼ見えない状態にすることで修復を可能にしている。また、保存・活用していく上で、必要な内外装の修理他、外壁煉瓦、



内観(2階回廊から公衆室方向)

(撮影全て/藤井浩司 Koji Fujii / TOREAL)

ドーム屋根、営業カウンター、暖炉等の内外装を当初の状態とすべく、当時の図面や記録写真を参考に材料調達・分解調査・施工実験等を元に施工方法の再現をすることで、大正3年当初の状態に復原されたことの良く分かる建物である。施工者の技術努力に感謝したい。そして、保存・活用のスタートがなされ、佐原のまちのシンボリック的存在である有形文化財が、今後も大切な建築文化として末永くそして丁寧に利用され続けることを切に期待したい。保存地区をまちぐるみで大切にしている努力に感動した。(竹江 文章)



外観(北西側)

建築主：日本郵便株式会社
設計：日本郵政株式会社 一級建築士事務所
施工：住友林業株式会社
所在地：南房総市加茂2695-3

入賞

一般建築物の部

～地域のみんで成長する郵便局をみんなで一緒に作っていく～

丸山郵便局

南房総の田園地帯に位置する「丸山郵便局」は、環境に配慮した「+（ぶらす）エコ郵便局」の全国第1号店舗として建設された木造の郵便局で、CLTの特性を活かした大きな庇と焼杉板の外壁が印象的な建物だ。地域の誇りとなり、愛着を持ってもらえる郵便局を目指し、「みんなで作るみんなの郵便局」をコンセプトに掲げている。

外壁の焼杉は地域の郵便局を作っていくという体験を共有するために、千葉県産の杉板を「三角焼き」という伝統的な方法で、地元の親子約60人と郵便局関係者約40人がチームになり地元企業に協力してもらい製作した。木を植え、育て、伐採加工、木を使う。そしてまた木を植えるという森



敷地は南房総の田園地域に位置しています

の循環のひとつの焼杉づくりに

地域の子も達が参加することで自分たちの郵便局という意識が自然と芽生える。

内装も木の香りと温かみが心地良く感じられるよう、天井をCLT現しとして、家具やベンチにもCLTを積極的に使っている。外部の庇から内部につながるロビーは窓口事務室と一体的につながる豊かな空間となっている。

みんなで作った丸山郵便局は、地域の人たちが気軽に立ち寄れる拠点であり、地域に根ざす郵便局のプロトタイプの一つを提案できた。今後の郵便局の展開に期待している。(藤本 香)



地域の子も達と千葉県産材を使って焼杉を作り外壁に使用しました

入賞

一般建築物の部

建築主：株式会社市原ゴルフ倶楽部
設計：株式会社大林組一級建築士事務所
施工：株式会社大林組
所在地：市原市奉免855番地

～高度な建築技術と環境が合体したクラブハウス～

市原ゴルフクラブ市原コースクラブハウス

市原市にある「市原ゴルフクラブ」に建て替えられたS造（一部鋼・木ハイブリッド梁）のクラブハウス（建築面積：4,450.43㎡、延床面積：3,722.93㎡、地上1階）である。かつて山頂であった立地特性を生かして、「独創的な印象に残る新たな風景の創造」が建て替えのテーマに掲げられた。そして、かつての山の稜線をなぞるような形態の柔らかな3次曲面による大きな一枚屋根を葺き、カーテンウォールのガラス面による開放性が訴求された。そのコース側にあたる外装は、ハイブリッド梁によって「自然と共にあるクラブハウス体験」ができる垂直面を提供している。



かつての山の稜線をなぞり、独創的な風景を創る大らかな1枚屋根

設計者が生み出した以上の建築構成は、ゴルフクラブハウスとしてユニークかつ魅力的である。ただし、カーテンウォールの高度に技術的な気密性の高い収まりに象徴されるように、もっと自然換気方式を取り入れるなど、施設の性格からして、視覚的な自然との繋がりだけではない建築のあり方を求め

ても良かったのではないだろうか、審査の過程でそのような意見もあった。

（岩村 和夫）



待合ラウンジよりレストランを見る

（撮影全て/エスエス 走出直道）

入賞

住宅の部

建築主：相川 美咲
設計：KtM（神成建築計画事務所+MIU建築工房）
施工：有限会社 島田建設
所在地：習志野市谷津

～音楽を街に広げる楽器のような音楽スタジオ～

谷津の音楽小屋 Atelier Musica

タイトルの通り音楽を奏するためこの建築は存在する。建築音響学の視点に立てば、フラッターエコーの回避だけではなく、残響時間・明瞭度・包まれ感など、音響シミュレーション等を設計時に行い、音の質感を綿密に検討するべきではないかと考えてしまうが、この作品のアプローチは全く異っている。

この作品には物語があり、依頼主が主に演奏する楽器であるフルートが、頭部管・胴部管・足部管と3分割構成であること、演奏する際に身体の3点支持で持つこと（さらには演奏者の方が3姉妹であること）など、3という数字につながる事柄の多さから、三角を基本形状としてその組合せで空間構成を行う手法が用いられている。大変興味深いのは、基本形状を決定した後、建設途中に室内で演奏をして、その響きを利用



上部から俯瞰する全景、三角形を基本とする3つの屋根から構成されている

用者と作り手が共に確認しながら、垂木の設置位置を調整する事であった。この小屋を楽器のごとく、直接音や反射音などのバランスを考えながらチューニングしていく斬新な音響調整手法である。完成した空間で演奏を聴いてみると、音楽小屋は見事にフルートから生み出される音と一体となり、美しいメロディーを奏でていた。音圧を感じるほどの迫力のある響きや緊張感のある繊細なタッチまで表現され、豊かな音楽に抱かれるようであった。

そして、小学生の通学路でもある前の通りを通る際も、音楽が優しくもれ聞こえてきて、日常の風景をととても豊かにしていた。長く地域に愛される音楽小屋となるだろう。（加藤 未佳）



構造表しで垂木をランダムに配置した内部演奏空間
（撮影全て/中村 絵）

選 考 の 基 準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- デザイン性に優れていること
- まちなみや周辺の景観と調和がとれていること
- 安全で快適な建築空間を創出していること
- 環境負荷の低減に配慮していること
- 防災への配慮がなされていること
- 施工上優れていること
- その他、独自の取組や提案がなされていること

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も含む。

第29回千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 委員 長 北原 理雄：千葉大学名誉教授 | 委 員 岡部 明子：東京大学大学院教授 |
| 副委員長 岩村 和夫：京都市大学名誉教授 | 委 員 加藤 未佳：日本大学准教授 |
| | 委 員 竹江 文章：一般社団法人千葉県建築士会会長 |
| | 委 員 藤本 香：建築士、千葉大学特任教授 |

千葉県建築文化賞の実績(応募総数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建 築 文 化 賞			建築文化奨励賞
			部 門		合計	
1～19回計 (H6～H24)		1,600	景観上優れた建築物の部	46	96	58
			ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部	26		
			環境に配慮した建築物の部	24		
20	H25	68	一般建築物の部	4	6	2
			住宅の部	2		
1～20回計		1,668			102	60

回数	年度	応募総数		部 門	建 築 文 化 賞			
		部門別内訳			最優秀賞	優秀賞	入賞	合計
21	H26	52	32	一般建築物の部	1	2	3	6
			20	住宅の部	0	1	2	3
22	H27	54	33	一般建築物の部	1	3	2	6
			21	住宅の部	1	1	0	2
23	H28	98	52	一般建築物の部	0	3	2	5
			46	住宅の部	0	3	1	4
24	H29	81	56	一般建築物の部	1	3	2	6
			25	住宅の部	0	2	1	3
25	H30	75	37	一般建築物の部	0	2	3	5
			38	住宅の部	1	2	1	4
26	R1	67	37	一般建築物の部	1	2	3	6
			30	住宅の部	1	1	1	3
27	R2	59	45	一般建築物の部	1	5	2	8
			14	住宅の部	0	0	1	1
28	R3	53	27	一般建築物の部	1	2	1	4
			26	住宅の部	1	2	1	4
29	R4	50	25	一般建築物の部	1	1	3	5
			25	住宅の部	1	2	1	4
21～29回計		589			12	37	30	79

※1 千葉県建築文化賞は、「景観上優れた建築物の部」及び「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」の2部門への表彰制度として平成6年度に創設。
 ※2 第3回(平成8年度)に「建築文化奨励賞」を新設。
 ※3 第5回(平成10年度)に「環境に配慮した建築物の部」部門を新設。
 ※4 第12回(平成17年度)に「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」から「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」と部門の名称を改称。
 ※5 第20回(平成25年度)に「景観上優れた建築物の部」、「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」及び「環境に配慮した建築物の部」の3部門から「一般建築物の部」及び「住宅の部」の2部門へと部門を再編。
 ※6 第21回(平成26年度)より「建築文化賞」及び「建築文化奨励賞」から「最優秀賞」、「優秀賞」及び「入賞」と賞の区分を再編。

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。
 その間、県下の広い地域にわたり、181(奨励賞を含めると241)の建築物が受賞され、
 それぞれの地域に根付いています。
 第30回の作品募集は、令和5年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

千葉県建築文化賞検討会議事務局



受賞作品の位置



お問い合わせ先

千葉県県土整備部都市整備局建築指導課
一般社団法人 千葉県建築士会

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3180 FAX.043(225)0913

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101

後援

(公社)千葉県建築士事務所協会

(一社)日本建築構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉

(一社)日本建築学会関東支部千葉支所

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会

(一社)千葉県設備設計事務所協会